令和３年度　第１回　埼玉県生涯学習審議会　会議録

１　日　時　　令和３年９月２日（木）１５：００～１６：３０

２　会　場　　Ｚｏｏｍ開催　及び　埼玉会館　会議室７Ｂ

３　出席した委員　（１８人）

生駒　章子委員、石川　哲也委員、牛山　佳久委員、大西麗衣子委員、大原真理子委員、柿沼トミ子委員、柿沼　光夫委員、加藤　文子委員、加藤　美幸委員、坂口　　緑委員、高澤　　守委員、中島　晴美委員、野澤　　優委員、平澤　　香委員、平野　正美委員、廣澤　健一委員、美田　宗亮委員、渡辺　美穂委員

４　欠席した委員　（２人）

春山　綾子委員、細屋みどり委員

５　会長及び副会長の選任

会長は坂口緑委員、副会長は美田宗亮委員が選任された。

６　議事の経過

（１）会長の開会宣言

（２）会議の公開・非公開

会長が会議の公開・非公開を委員に諮り、公開とする。

傍聴者なし

（３）会議録署名委員の指名

会長から牛山委員と大西委員が指名された。

（４）議題及び経過

ア　議題

○　埼玉県教育委員会からの諮問事項について

○　埼玉県生涯学習推進指針の総括について

○　未来に向けた埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について

イ　経過

（議題１・２）埼玉県教育委員会からの諮問事項について
埼玉県生涯学習推進指針の総括について
事務局より説明
「平成25年3月に策定された現行の生涯学習推進指針は、生涯学習活動に取組んだ県民の割合が増え、生涯学習に関連する市町村の取組も増加する等、一定の成果を上げた。一方で、人生100年時代の到来や、未曽有のコロナ禍等、社会は大きく変容し、生涯学習を取り巻く環境もまた変化している。指針の策定から間もなく10年を迎える今、県民が生涯にわたり学び活躍でき、誰ひとり取り残さない生涯学習社会をつくるため、未来に向け、埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性についてご審議いただきたい。」

会長　今回の諮問、そして今までの指針の総括の説明があった。
これに関して、時代背景が変わり、10年前に作られたものを改めて見ると、やはり想定されている社会が違うのだろうと感じる。皆様の方でお気づきの点やご質問等があれば出していただきたい。

委員　事務局から説明があった中で気になるのは、ともに学び合う仲間づくりについては5.3倍に増えているが、学びを支える人づくりがあまり増えていない。
土台が弱いところが浮かび上がってきているのではと思う。

委員　私の感想を話させていただきたい。
一つは、成果として発表の場が増えたという点はなるほどと思う。
今はSNSのようなインターネットを通じた発表の場が、若い方からお年を召した方まで広く使われているからではないかと思う。
今日の会議がZoomで行われていることも、その一つの表れだろう。一方でなかなか難しいと思うのは、社会教育や生涯学習が地域をベースに取り組まれてきたが、インターネットを使うことで、地域性が失われていく恐れがあるという点。
その辺りをどう理解しながら進めていくのかということを、この後の議論で皆さんとお話できたらいいと思う。
私の体験だが、父母が亡くなってからお盆の時に何を出したらいいかということがわからなくて、インターネットで調べたことがある。インターネットでは一般的な情報が出てくるので、私が住んでいる地域でのお盆の風習がわからなかった。

インターネットの普及によって、発表の場や学びの場が広くなる一方で、今後生涯学習の学びの場の中で地域文化に光が当たらなくなるのではないかと思った。

会長　委員から指摘のあった人づくりについてご説明願いたい。

事務局　学びを支える人づくりということで、よく取り上げられている事業としては、ジュニア防災リーダー講習がある。

小中学生が集まって、ジュニアリーダーとして成長し、その子たちがゆくゆくはその地域のリーダーとなる、そういった研修や、ボランティア講習会などがある。

講座数自体は多いと思うが、それをもっとうまく活用していくといいのかなと考えている。

委員　指針の成果を見ると、事業数が増えているということだが、「学んだ成果を生かす仕組み」や、「成果が見える機会づくり」の割合が低下している。これはなんの数をもって低下としているのかお聞きしたい。

また、まとめのところで、学びの循環が進んできているとあるが、これは総合的な事業数の合計が増えているから、学びの循環が進んできているという総括であると考えてよいか。

資料には県民サポーターアンケートの結果等も掲載されている。事業の成果として一番わかりやすいのは数字だが、事業数ではアウトカムがよくわからない。

県民の満足度について評価があると、この指針の成果がより明らかになると思う。

会長　「学んだ成果を生かす仕組み」や、「成果が見える機会づくり」の割合については事務局から説明がなかったので、説明を求める。

事務局　割合については、全体の事業数に対してのものなので、例えば「共に学びあう仲間づくり」の事業数が大きく増えると「学んだ成果を生かす仕組み」の割合が相対的に減ることになる。

県民の満足度については、県政サポーターアンケートを元に取りまとめた。それによると、平成24年よりも現在の方が、生涯学習をした

ことがあると回答した数値は上がっているので、生涯学習活動の認知が高まっていると言える。

会長　指針の成果を把握するのは中々難しいことと思う。
具体的な各事業に関しては、きちんと成果を把握されていると思う。
指針を作るという私たちのこれからの仕事を考えると、これがどんなふうに今後評価されるのか、これがあることで、何が可能になって何が可能でなくなるのかということが共有できると、議論しやすいだろうと思う。

委員　先ほどの私の質問の仕方が悪かったのかもしれないが、今ジュニアリーダー研修会とかボランティア講習という中身の説明があった。
私が確認で聞きたかったのは、そうではなく、そのジュニアリーダー研修会やボランティア講習を受けた方が、その学んだことを、社会還元できる立場に育ったのかどうなのかを確認したい。

事務局　それらの事業は市町村の事業なので、後追いで調査するということは行っていない。

会長　県の指針は市町村が事業を組み立てる時の方向性に影響を与えるが、そういう意味では間接的だ。
人を育てるという部分に関しても間接的なところがあるかと思う。
ただ、各事業を動かしていく根拠、舵取りになるのがこの指針であると思うので、ご指摘いただいたように、きちんと反映させなければいけないというところが、私たちが諮問を受けて考えなければいけない点だと思う。

（議題３）未来に向けた埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について
事務局より説明
「人生 100 年時代の到来、グローバル化、デジタル化の進展等、社会の中に新しい潮流がある。一方で、学びを支える人づくりのように、調査から浮上する課題がある。そして、現在は新型コロナウイルスの感染拡大という新しい危機のただ中にある。そのような中で、未来に向けた、埼玉県の新たな生涯学習推進の方向性について、それぞれの委員のお立場からご意見いただきたい。」

会長　委員から、事業として取り上げられる要件、条件は何かという質問をチャットでいただいているが、よろしければご発言いただきたいと思う。

委員　事業について書かれているが、事業の数え方というか、これが１事業というのはどのように数えているのか教えていただきたい。

事務局　各市町村に事業数、事業について報告をしていただく調査を年に１回行っている。
子ども大学、子育てサロンからシニア大学まで、幅広い年齢を対象にした多くの事業が市町村で実施されている。その中で、例えば３回連続の講座で、初日は集まって座学をして、３日目に発表をするというように、一つの講座であっても、学びを支える要素、仲間づくりの要素、学んだ成果を発表する要素というように、様々な面があるため、それぞれの項目にカウントされている。

会長　この指針は、県の教育局が行う社会教育の事業だけでなく、市町村で行われる社会教育関連の事業にも影響があるので、カウントの仕方が複雑になってくるのかなと思う。
今回少し時間を取っているので、今までの指針から、今後の課題として提示されている、「人生100年時代」、「グローバル化デジタル技術」といった新しい潮流についてどうするのか、或いは学びを支える人づくりに今後どうやって取り組むと良いのか、さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況において、生涯学習を推進する方針をどう考えるのかというあたり、ぜひ、ご意見やご感想をお願いしたい。

委員　コロナの影響で、インターネットでの活動とか、デジタル技術の発展など、10年ぐらい早く先に行った感じだと思う。そうしたことも指針に反映させていくのがいいだろう。

その中で一つの案として、私はさいたま市在住だが、さいたま市の公民館の社会教育主事さんが主導して、コロナ禍でｅ公民館という取組を行っている。去年からいろいろなテーマで15分ぐらいの動画を作って出している。

私も「親子のコミュニケーション　思春期編」のようなテーマで、１本担当させていただくことになっている。現在は社会教育主事さんが主になってやっている。県が主体となっている同様の取組はまだないと思う。

埼玉県が主導して、公民館等にお金を出し、社会教育主事さんを中心にして、近くの大学や高校の学生、生徒にスタッフをお願いして番組を作っていく。その番組には、いろいろな地域の人たちも関わるし、例えば外国の人や、60歳以上の定年退職された方のように、いろいろな人たちに参加してもらい、完成した番組を発表していく。

そういうことを続けていくと、関わった人たちが、生涯学習に興味を持っていくので、例えばこれを10年続けたら、生涯学習に広がりが出てくるのではないかと思う。

これは一つの案だが、インターネットの活用は、今後の指針には入ってくると思う。

会長　学ぶだけではなく、コンテンツをつくれるというご提案かと思う。

委員　課題として、できれば今日本が抱えている、もしくは埼玉県が抱えている社会的課題の解決に、何か寄与できるようなものを選んだらいいのではないか。一つは昨日デジタル庁が発足したが、日本の現状はデジタルネイティブと呼ばれる人たちと、全くできない人たちに大きく差がついているので、デジタル技術についてある程度全体の底上げができるような取組をしていくことが重要だと思う。

もう一点、新型コロナのワクチンについての考え方もそうだが、世代間でいろいろな意見が出て、日本人が一つになりきれてないようなところがあるので、生涯学習を通じて世代間の理解を深めるような取組も、コロナの影響を考えると、一つのテーマになるのではと感じる。

会長　確かに世代間等いろいろな分断が目につくのが現代の社会だと思う。

委員　人生100年時代の到来、グローバル化、デジタル機器の発展ということで、AIを取り込むことを抜きにしては考えられない時代になっている。一方で、ある一定の年代以上の方は、経験等、生活の知識はあるが、技術的な発展を、自分の手になかなか取り込みにくいということがある。

そこでこれからますます大事になってくるのが、地域文化だと思う。

100年時代の人生の経験値と、それをデジタル技術AIの中に取り込むということ。そのようにして日本の文化、伝統をマトリックスするようなものを大きな潮流の中に取り込めると、埼玉県としての文化度、或いは魅力アップにも繋がっていくし、関わってくる方々それぞれの技術が生かせるのではと思う。

会長　この間、自宅で働く人が増えたりして、地域の重要性が改めて多くの人に理解されてきているのではと思う。

それから公的な領域がどれだけ社会を支えているのかということも、改めて分かってきている。

今ご指摘いただいたような、デジタルで繋がっていながらも、地域の顔が見える関係を耕す必要があるというのは本当にその通りだと思った。

生涯学習に関する新たな方向性のご提案なので、こうやって皆さんにキーワードを挙げていただくと今後に繋がると思う。

委員　質問だが、埼玉県の教育委員会のサイトに、動画をアップすることは可能なのか。

埼玉県が結局何に困っているのかということが、今の段階では正直不明瞭だ。

それを明らかにすることも大事であると同時に、今こんなことが行われているということを記録しておくことも必要ではないかと思うので、技術的なことを伺えたらと思う。

会長　動画をサイトに上げるというのと、今おっしゃってくださったこと

はどんな関係があるか。

委員　現状を知る時に、文字情報だけではなく、動画があった方がわかりやすいのではないかと思った。

YouTube程ではなくても、短い映像で、今埼玉県ではこんなことが行われていると分かるようにして、埼玉県の現状を広く認知してもらう。そこから、困っていることを把握していくことで、全体で情報が共有できるようにならないかと思った。

また、生涯学習の課題について考えるときに、今後十年間という非常に長い期間について考えるのは難しいというのが第一印象だ。今後この生涯学習審議会が、この２年間でどこまで何をするのかということの見通しをまず知りたいと思う。

例えば先ほど発表会が少ないということだったが、学んだ成果を生かす仕組みのところで言うと、結局全体の事業数に占める発表会とかコンクールの割合が増えてないことが問題だということと思う。

それであれば、それをウェブでできないのかと考えた。

何が問題なのかと考えた時に、デジタル技術とかグローバル化というのは大きいので、それを進めていくというのも大事だが、今あるものを記録に残すようなこともしていただけないかと提案させていただいた。

会長　各市町村の生涯学習推進計画は５年とか10年ごとに改定していくものだ。

今ご説明いただいた成果の部分は、この指針に基づいて市町村でどんな事業が展開され、その結果どんな課題が出てきたのかということでご説明いただいたものだ。発表会の割合が全体としては少ないというのが数字で出たということだが、これを解決するために次の指針を作るというわけでは決してない。

今度の指針はむしろ、大きいことをお話いただきながら、埼玉県全体が、生涯学習の指針としてどういうものを持っていれば今後10年、生涯学習活動がもっと望む方向に盛んになるかどうかということを考えていくというのが今回の私たちの仕事になると思う。

発表の方法はいろいろあるのではというご提案を今、委員からいただいたが、その通りだと思う。

自治体も各団体もそのようになさっていると思うし、今後、私たち

がデジタル化ということを強く打ち出せば、その方向で予算が組まれて事業になっていくと予想する。

新しい指針については、必ずしも過去のものにすべて基づかなくてもいいかと思う。よろしければ事務局から少し補足をいただきたい。

事務局　あくまで指針なので、目標値があるわけではない。動画配信が可能かというお話があったと思うが、そちらについては、一応できる。

会長　新しい指針を考えるときに、私たちはどうしても今までの指針を見てしまうので、今までの指針に基づいて次の指針を作った方がいいのか、それとも今回、いろいろなお話をいただきながら新しいキーワード、新しい方向性を出した方がいいのかという辺りを委員は迷われているのかと思うが、その辺の事務局としてのお考えはいかがか。

委員　補足だが、これまでの推進指針の総括や改善といった課題を次の指針にはもう生かさなくても良い、全く関係なく、新しく始めていいということだったら、これまでの指針はこういう指針だったと置いておくことができるのだが、今までの十年間の指針を基礎にして、さらに次の10年を考えるということが必要かどうかを伺いたいということだ。

会長　基本的には後者の方だ。全く新しくして一から書くということはもちろんない。

先ほどいただいた諮問というのが私たちに課せられた宿題のすべてだ。その中で、学びあいともに支える社会という今までの指針がある一方で、人生100年時代、グローバル化、急速なデジタル化の進展、男女共同参画の広がり、ボランティア活動の機運の高まり等、この間に積み上げられてきた新しい課題があるので、それを受けて考えるという意味では委員の言ってくださった後半の方、今の指針を全く捨てるわけではないということになる。

総括についても、私たちがすべて総括してそれに基づいてということではないので、いわゆるPDCAで回るようなものではない。

事業評価をしてそれに対する新しい事業を作るというものではないので、そこは指針というものの曖昧さが残っていると思う。

事務局　事務局から補足させていただく。

昔は計画があり、それは県が生涯学習推進のために何をするかを示したものだった。それよりももっと県民に寄り添って、県民の生涯学習を進めるためには、県としてどういう方向性を示せばいいかという形で、指針を示させていただいたという経緯がある。

指針で学びの循環の大切さや、学んでいる人たちが、より地域の方に出ていけるようになることの大切さを示したことで、各市町村が指針に沿った事業を作ってきた。指針は、そのように10年間の方向性を示したものであって、今度皆さん方にご審議いただきたいのは、その方向性がどうだったかどうかということだ。

必ずしも10年後を見据えてということではなく、埼玉県の生涯学習の方向性はこんな感じがいいのではないかということを御提案いただけるとありがたい。

社会の変化は日進月歩なので、10年先の話をするのは難しいところがある。今現在、いくつかの課題が出てきているので、それらを踏まえて、少し見直していただいたらいいだろうということで諮問が出ているとご理解いただきたい。

委員　ネット社会ということで、事業も対面ではなくて、ネットでやろうとか、それでも十分じゃないかということを言われていると思うが、ネット社会だからこそ体験を重視するということを、常にやっていかないと、ネット社会に流されてしまうのではという気がする。

委員　皆さんの意見を聞いていて、教育現場から思うことをお伝えさせていただきたい。

まず、今オンライン授業が始まって、私たちも必死に追いつこうと頑張っているところだ。学校には不登校の子供や、学校が怖くて来られない子、感染対策で学校に来られない子もいる。それを橋渡しして、つなぎとめてくれているのが、インターネットだ。

だから、それがなくなると、子供たちがぷっつりと学校、世界から隔離されてしまうので、インターネットは本当に今後絶対に必要なものになってくる。

長い目で見ると、コロナ収束について、いろいろな情報が出ているが、約４年か５年後が収束だろうとも言われている。

そうすると、この先10年間の展望は難しいというのは本当に明らか

だが、コロナウイルスの感染拡大について、それを念頭に入れて、どうやっていくか考えていかなくてはいけないとすごく思う。

それが一点目だ。

二つ目が、インターネットについて、これは今言ったように、つながれない世の中にあって繋がりを作る一つのものだと考えている。

インターネットがなくては、本当に人との繋がりがなくなってしまう方々がたくさんいるということなので、学びとも切っても切り離せないのではないかと思う。

ただそれだけではなく、地域文化、そして体験重視、これは本当に大切だと、改めて昨年度の休校期間で強く思ったものだ。

子供たちが失った体験というのは非常に多く、大きく影響していると思うので、体験、地域文化との交流をできるような活動もしつつ、ネットも取り組んでいくということが必要になると思う。

特に、コロナワクチンの接種で、高齢者の方々もネットがある方、使える方と使えない方では、大きくワクチン接種の時期もずれたと思う。近くに頼れる方がいなかった方は非常に苦労されたと思う。

また現在小学校のお子さんを持つ保護者の方々も、ネットができる、できないで、オンライン事業に楽しんで参加できるのか、恐怖感を覚えて参加しているのか、大きく差が出ている。

これも地域格差が出てきてしまっていて、もっと言うとデジタル格差が、地域によって出てきてしまっているというふうに私は感じている。

ある市では、親御さんもそういう技術が高い。

ある市では、デジタル技術がまだ浸透しておらず、非常に苦しい、誰か地域の人、助けてと叫んでいる保護者の方もいる。

そういうことも考えて、大きな目で見ていくといいと感じている。

委員　生涯学習は市町村でやっていくということが、大きな流れで、そういう方向になっている。

近年生涯学習というと、人的にも財政的にも、県が市町村に対して支援するということが、本当に年々なくなっているという状況だ。

そういう中で、県の指針が策定され、それを市町村がどう受けとめるのかというのを、自分の市のことも考えながらお話を聞いていた。私のところでも、県の指針を受けて、生涯学習推進計画「久喜市まなびすとプラン」というのを作成している。

それぞれ市が独自に特性を持ってやらなければならない時代なのだろうと思っている。

デジタル化、オンラインの関係も少しずつやっているし、いろいろな取組をしているが、最近気がかりなのは、県のデータと余りにも乖離していることだ。例えば、生涯学習団体と言われる文化団体、いろいろな団体があるが、その文化団体の会員数、或いはスポーツ団体、これもたくさんあるが、その会員数は必ずしも増えていない。

逆に減少傾向で、私の市も40年の歴史がある４年制の高齢者大学というのがある。

これは大学に委託をするのではなくて、手づくりで行っている４年制の大学で、かつては1学年200人の学生がいたが、近年はもう50人とか、そのぐらいの人数しか集まらない。

人生100年時代なので、本来なら高寿命化しているから元気な高齢者が多いわけだが、現実は入学者が少なくなっている。

このことのギャップがなかなか理解できないところもある。

また市町村は今、災害のことが非常に大きな問題で、近年毎年のように、災害の惨禍に見舞われているので、災害と、地域のコミュニティづくりの関わりの中で、生涯学習を結びつけていただければと思う。

生涯学習をどういうふうに進めていくかという点について、市町村の教育委員会を代表してきている私の立場から申し上げると、指針は大事ではあるけれども、指針を示されるのであればそれに伴う、例えば人的、財政的な支援をお考えいただきながら進めていただくことが、現実には大事なのではないかと思っている。

おそらく、どの市町村もそういう思いを持ちながらやっていると思うので、お話させていただいた。

会長　おっしゃる通りだと思う。

委員　先ほど委員からお話があったが、デジタル格差は大きなキーワードと思ってお聞きした。

10年前に、この会議がズームで行えると思っていた方は多分いらっしゃらなかったのではないかと思う。

私は両親と同居していて、さいたま市からコロナワクチンの通知がきた時に両親が一生懸命読んでいたが、どこを読んでも接種会場が書

いていないと言う。

確かに、読むとどこにも書いてなくて、詳細はさいたま市のホームページを見てくださいというご案内だった。

担当者の気持ちになれば刻々と状況も変わるし、会場も変わるし、いろいろ変わっていく情報を紙媒体で伝えることはとても難しくて、ホームページをご案内するという気持ちは分かる。一方で、私の両親のように全くデジタルに無縁で、ホームページどころか携帯の操作があやしい世代の方から見ると、それは情報がシャットダウンされていたのと全く同じことだ。

うちの場合は私が伝えたが、世代間でデジタルの格差がものすごく広がっていて、デジタルに全く不明な方と、毎日ネットで情報を得ている方の見ている世界がものすごく違っていて、そういう情報格差が、ものすごく広がっていると思う。

デジタルの技術は本当に日進月歩で、おそらく今、インターネットを使いこなしている方も、10年後はどんどん技術が進化するので、今のままでいるとどんどん取り残されていって、全く追いつけなくなってしまうだろう。

だからこそ、デジタルの技術は生涯学習が必要な分野かと思う。

お年寄りはもちろん若い方まで、そういったことに取り残されないための取組が必要ではとすごく感じている。先ほどの教育格差についても、お父さんお母さんがデジタルに疎くてネットでの授業についていくのがやっとという方ももちろんいらっしゃると思う。

だからそういった幅広い年代で、デジタル格差をなくす取組を、ぜひ今回の話し合いの中で取り上げていただきたいと感じた。

委員　先ほどから10年という話もちらほら出ているが、計画ではなくて指針であるし、変化の激しい時代において、10年間同じ内容ではもたないと思うので、その都度見直せるような柔軟性がある指針を作っていくといいというのが一点。

２点目は、指針は県や市町村の事業を中心に書かれている。確かに市町村にこういうことをやってくださいという道しるべのようなものは必要だと思うが、もうお金もない時代だ。また、先ほどの今回の指針の成果の中で、成果を生かす仕組みづくりが足りないという話もあった。

成果を生かすのは学習者とか、生涯学習を行う人自身なので、生涯

学習をやる人に向けて、方向性を示すことがもう少し書かれるといいと思った。

３点目は先ほど災害のお話があったので、今後の展望に新型コロナウイルス感染症について言及があるが、災害も含めていただいて、その中でどのように生涯学習を進めていくかということを、書いていけばいいかと思う。

コロナ禍にあって、デジタルが必要不可欠ではあるが、やはりリアル、対面で会うことが本当に大事だ。子供たちにしても、公民館の仲間にしてもなかなか会えなくて大変困っているし、学習が進みづらいところがあるので、そういったデジタルとリアルの一体的推進についても掲載できればいいと思った。

会長　この指針をどうしても内向きに考えていたが、広く県民一人一人に届くような、そういう呼びかけにしていくという視点に変えていくのも確かに大事だ。

委員　お話を伺って、皆さんから出た意見に非常に賛同している。

特に世代間はギャップが激しいし、資料の中に「誰ひとり取り残さない」というキーワードがあったが、本当に格差、デジタルだけでなく経済格差とか情報格差とか、非常に格差が大きくなってきている。

そのような中で、これまで県が取り組んできた在住外国人の方たちなどもインクルーシブで生涯学習に参画できるようにすることについてはぜひ重点を置いていただきたいと思った。

もう一つ、体験の話も出たが、私も実際に自分の事業が去年からずっとオンラインになっている。リアルの重要性、リアルがどう重要なのかということも、きちんと言語化して伝わるようにしていかないといけないので、ぜひそこも強調していただきたいと思った。

もう一つ、先ほど成果をどう生かすのかというお話があったが、地域によって取組状況に差があると思うので、それが比較しやすいように、例えばマップだとか、どういう人たちが生涯学習に参加してどんな学びをしたのかということが、もう少しわかりやすく伝わるものがあるといいと思った。

委員　今のご発言に関連してだが、実際の現場でいろいろな取組をしていると、どんなことがよそで行われているのかを調べることはものすご

く大変だ。そういったことを知るために、私の場合は自分の足で歩くフィールドワークの方法を使うが、皆さんがそれをできるわけではないので、自治体でそういった情報を掴んでいるのであれば、それを伝える方法を持っていただきたい。

それをもとに、今回の指針を改めて作り直すということを考えていけるように、市民、県民が情報を得られるように考えていただけるといいかと思う。

会長　確かに会議の基礎資料として必要かと思う。

副会長　皆さんのご意見を伺って、まさに最前線で活躍されている方々が、実体験のお話、今一番必要とされている現状のお話をされていたと思う。

それを事務局の方々にもよく掴んでいただいて、指針策定等にも生かしていただきたいと思う。

先ほど議論の冒頭の方で、今までの10年を踏まえた上で、さらにブラッシュアップされたものを、作っていくという考えだと伺ったが、だとするならば、資料の最初のところに「本指針において数値目標等は定めていない」と、前置きしてしまっているが、数字を出すからにはある程度の目標値を定めていないと、この数字が指針を定めた時の、理念とか考え通りにいっているのかということが掴めないと思う。

指針１のところに3.5倍だとか2,362事業に増えたとあるが、これが当初の目的にかなっているのかどうかは我々にはわからない。

やっぱり最初に目標値をある程度定めてそれをお示しいただかないことには、10倍に増えたからいいのかとか、1.5倍ではまだ足りないのかとか、そこが掴めないと思う。

指針を定めるにあたって、数値をこうやって出すならば目標値をあらかじめ定めておいて、そういう目標値に向かって市町村に活動していただくからには、こういう指針が必要になってくる、こういう方針をこの場で話し合おうという論理立てもできるかと思うので、事務局にはご一考いただきたいと思う。

議事まとめ

会長　たくさんの貴重なご意見をいただいた。

私のまとめが合っているかわからないが、デジタル化は必須、そのための整備を進めるという方向はもう不可逆であるという強いご意見がある。

同時に、委員の皆様の中にはそれが、地域性、地域の文化を守っていくこと或いは体験を重視することとセットで行われないと、大変危険ではないかということも共有されているのかなと思った。

そして、この視点をぜひ忘れないで、共有していきたいと思った。

もう一つ、やはり様々な分断がある。世代間、地域間それから経済的な分断、そしてデジタル格差というのも本当に大きな問題であるということを、実感を持ってご説明いただいたので、こちらも本当に忘れないでいきたい。

「誰ひとり取り残さない」というフレーズは、みんなが空で言えるぐらいになっているが、それを実行していくためには、様々な分断を福祉の分野に任せておくのではなく、生涯学習においてもそこに目配りをしてみんなが参加できるようなプラットフォームを作っていく。

そういう指針であるべきだということを改めて強く思った。

今後はもう少し具体的な話に進むと思うので、今日は本当に話をしづらい会だったのではと思うが、それでもさすが委員の皆様にご意見いただいて本当にありがたいと思う。

では、その他に何か議題はあるか。

＜事務局より次回以降の会議日程について説明＞

会長　その他に委員の皆様から何かあるか。

＜特になし＞

会長　それでは本日の議事は以上で終了とする。